

# 日本栄養療法推進協議会理事長挨拶

近畿大学医学部名誉教授 大柳治正

令和2年11月吉日

1970年代に米国で静脈栄養法の有効性の拡大と合併症の減少を目指して、栄養療法サポートチームNSTが創設された。本邦でも2000年以前に一部の施設でNSTが作られていたが、本格的な全国展開が始まったのは、日本静脈経腸学会が本邦独自の構成メンバーがボランティアによるPotluck Party Methodを提唱してからである。その後、NSTの患者管理への有効性と経済的メリットが証明され、多くの学会で栄養療法サポートチームが作られ、普及してきた。

しかし、各施設内でのNST活動に対するさらなる理解と、ボランティアとして兼任の形で参加しているチームメンバーのインセンティブ維持・向上が必須条件になってきた。

そのため栄養療法管理加算を厚生労働省に申請した時に、各学会の栄養管理に関する努力は多とするが、学会だけの質の保証や自助努力だけでは世間は納得しない。第三者を入れて栄養サポートチームの質の保証、改善を促す第三者機関が必要と勧告された。

2004年に日野原重明聖路加国際病院理事長にご相談の上、学術団体には、(当時)一般社団法人日本静脈経腸栄養学会、一般社団法人日本病態栄養学会、日本外科代謝栄養学会の3学会とし、職能団体には、公益社団法人日本医師会、公益社団法人日本看護協会、一般社団法人日本病院薬剤師会、公益社団法人日本栄養士会、一般社団法人日本臨床衛生検査技師会の5団体とし、それぞれの協力を得て、日野原重明先生を理事長にした任意団体:日本栄養療法推進協議会 JCNT が設立された。NST の医療上および経済的な成果に加えて、第三者機関 J C N T の設立が評価され、2006年に栄養管理実施加算が認められた。

2013年にJCNTは一般財団法人になり、近畿大学の  
大柳治正が2代目理事長となり、現在に至っている。  
また2年前より一般社団法人日本臨床栄養学会が  
メンバーに加わった。

JCNTの主たる設立目的は、第三者機関としての  
NSTの質の保証向上であり、そのためにNST稼働施  
設認定を行っているが、同時に施設や病院の管理者に  
対してNSTはどの様に行われ、患者さんや施設にど  
の様なメリットがあるかを理解して頂くために教育  
セミナーを開催してきた。各学会のセミナーと内容が  
一部に重なることがあっても、NSTメンバーの施設  
内での地位向上と厚生労働省の要望に沿ったもので  
ある。

今回、創立時からの構成員である日本病態栄養学会  
がJCNTを退会することとなった。糖尿病を中心と  
した慢性期患者の栄養管理に主力を注ぐ日本病態栄  
養学会と、栄養アセスメントに注目し、急性期患者の  
栄養管理にも重要視する外科系の構成員との間に

栄養管理法の理念に少しずつ齟齬が生じた結果で残念である。ただ JCNT には日本臨床栄養学会が残っており、内科系の構成員にも迷惑をかけずに、活動は継続できるし、日本病態栄養学会とも良い意味で競合出来ることを願っている。また JCNT の趣旨を理解され、15 年近く一緒に活動してきた、日本病態栄養学会推薦の本協議会の会員の皆様に、辞めて下さいという不条理なことを申し上げる積りは全くなく、認定更新を望まれば、いつでも門戸を開放している旨を申し添えておきます。

JCNT は定款と役員を一部変更し再出発するので、会員各位の今まで以上の暖かいご理解とご支援をお願い申し上げる次第である。